

令和5年度 特別支援教育 研究のまとめ

梶山雅司・久下あいり・横山由季・高阪英徳
 笹倉美代・小野村晃太・高木由希・松下友紀

1. 研究会等で明らかになった教科等の資質能力の具体

(1) 小学校 特別支援学級 中学年「クラス発表会～むしたちのうんどうかいをしよう～」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	○絵本に登場する虫のイメージを言語化し、その虫のイメージを体で表現した。	・自分の見せ場を考え、自分なりの言葉や動作で虫を表現することで、自分の役のやるべきことをイメージできるようにした。	意欲を育てる工夫
	○劇の取り組みの中で、発表後のゴールイメージをもつことで、見通しをもって学習や活動に取り組むことができた。	・友だちや家族が見ている前で劇をすることに期待感をもち、また、それを他者からの評価をしてもらうことで、がんばった自分を実感し、劇の取り組みに対する達成感をもつことができるようにした。	知識、技能、学びに向かう態度等の育成
授業 実践力	●児童によっては、選択肢から選ぶ場面で、選択肢を順番に答える場面があり、場面にあった思考に至らなかった。	・自分の出どころでの言葉や動きを考えたり、選択したりして、自分なりの表現方法で、演じることができるようにした。	主体的活動を促す手立て
	○競技の特性や協議前の気持ちなどを自分で考えて、セリフにすることができた。	・児童が自分の経験をもとにした事柄を絵本と関連付けることで、絵本の内容や場面ごとの演出を具体的にイメージできるようにし、言葉や動きで表現できるようにした。	課題解決に向けた思考力、判断力、表現力等を育む指導
授業 分析・ 評価力	○クラス発表会後のイメージをもって、「パパとママ、ほめてくれるかな」と、発言する児童の姿があった。	・劇に取り組むことでの他者からの評価を、活動やふりかえりの中で、具体的な言葉がけで働きかけた。	学習への意欲に対する見取りや分析
	○劇の発表後、自分の役を思い出して演じたり、虫のおもちゃ等を触ったりする自主的な姿が見られた。	・劇の発表後に自信や達成感をもつことができるように、児童が主体的に取り組むことができる場面の設定と劇に関連した取り組みを継続的に行った。	

(2) 小学校 特別支援 6年図画工作科「養高博物館 with 遠隔操作ロボット」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	○博物館で鑑賞したことを普段の会話の中で話題にする姿が見られた。	・公共の施設(広島県立歴史博物館)と連携して児童の活動の幅を広げた。	生活と結びつきのある指導内容の設定
	○他教科の授業も、児童が自分で内容や順番を決めて進行しようとしていた。	・児童の興味関心に基付いた授業展開や、児童が主体となって活動できる環境を設定した。	知識, 技能, 学びに向かう態度等の育成 意欲を育てる工夫
授業 実践力	○日常生活の中で、物事を比較したり、イメージをもとに新たに作ろうとしたりしていた。	・日頃から、造形的な見方・考え方に関する話題に触れたり、イメージ豊かな会話をしたりするようにした。	課題解決に向けた思考力, 判断力, 表現力等を育む指導
授業 分析・ 評価力	○児童自身が動画を視聴して自己省察をすることで一層意欲が増し、新規な活動に取り組もうとする姿が見られた。	・児童の言動の変容を抽出し、どのような場面で目標に関する言動や探究心が喚起されるのかを考察した。	段階的な指導を行うための見取りや分析, 授業改善

(3) 中学校 特別支援 生活単元学習 2年「わたしと東雲のまち」

資質能力	児童・生徒の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	○生徒が地図を前に積極的に意見を出し合い、予想している。	・生徒に身近なものを取り上げた。予想するために必要な知識や情報を、日常生活の中で経験しているであろう(しかし確かな経験にはなっていないであろう)課題を設定した。	生活と結びつきのある指導内容の設定
授業 実践力	○ペアでの話し合いで意見の一致しない部分を、ペアだけで終わらせるのではなく、全体でも共有し、予想・思考が深まっていた。	・ペアでの意見を全体で共有する場を設定した。 ・教師が、深めてほしい意見をピックアップして伝えた。	課題解決に向けた思考力, 判断力, 表現力等を育む指導
	●個人思考が5分間あり、長い様子であった。	・いきなり話し合いに入ると追いつけない、自分の意見を言いづらい生徒がいたため、時間を取っている。	成功体験を豊富にする手立てや形成的評価
授業 分析・ 評価力	○ペアで予想する際、たくさんの商品(身近なもの)について、スムーズに意見を言うことができていた。	・生徒の実態から、予想する対象をはじめは一つ(黒ペン)、その後に複数と、単元の中で段階的に仕組んだ。	段階的な指導を行うための見取りや分析, 授業改善

2. 研究についての考察

表1 特別支援教育の本来の魅力に迫るための教師の資質能力

資質能力	特別支援教育が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がイメージできるもの、生活に身近な題材を扱った授業づくり ・児童生徒の体験や経験を踏まえ、その知識と関連づけた授業づくり
授業実践力	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の課題に応じて、児童生徒の思考を促したり、学習を深めたりすること ・設定した学習課題に対して、児童生徒の知識や経験、考えていることを言語や対話で引き出すこと ・他の学習や日常生活に関連付けた学びの広がり
授業分析・評価力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や単元終了後に、学習したことの広がりや深まりなど、生活と関連づけて、児童生徒の姿をと捉えていく授業づくり ・生活と関連付けた学習の広がりや児童生徒の見取り ・授業前に想定した児童の具体的な姿を、実際の姿と関連づけて評価する。事前に考えた手立ての有効性を検討できること

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・逆向き設計論における授業づくりをすることで、指導案の書き方についてはこれまでと重なる点があることがわかった。 ・特別支援教育においては、本時の学習の中では、児童の変容を捉えることができない場合があり、単元で変容を記述していく方が、評価がしやすい。 ・目標や手立てが焦点化、明確化したことで、目標とする児童の姿をより具体的に持つことができ、言葉掛けや評価に生かすことができた。 ・評価基準を細分化したことにより、スモールステップでの評価が可能となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の行動目標がと関連づけて評価していくため、評価する内容がどの内容と関連しているのかわかりづらいという意見があった。 ・特別支援学級での指導案の場合、個別の目標と手立てがすでにあるため、重複する部分が発生した。 ・個別に評価を行うため、人数分のルーブリックが必要となり、日々の実践を考えると現実的ではなかった。 ・目標設定や手立ての妥当性及び客観性、評価方法の在り方について検討していく必要がある。